

★ 連 合 会 だ よ り ★

ホームヘルパー養成研修講座も34,000人の修了生を誕生させるところまで到達してきました。10月21日には、「第5回全国ケアワーカー研修・交流集会」（第1部）を開催しました。介護保険の実施後6ヶ月間が経過し、この間の実践経験を交流すると同時に介護・福祉事業における政策と方針について学び交流する場となりました。過去、4回の集会の蓄積の上に、21世紀を展望する地域からの“奮闘と確信”が伝わりました。来年の2月には（第2部）として事例検討と自治体の施策を学ぶ企画を準備しています。もっともっと多くの皆さんと有意義な集会にしたいと思います。

このような中、いよいよ「いま『協同』を拓く2000全国集会」の開催が近づき準備が本格的になってきました。今回の集会は、例年と比較すると若干取り組み開始が遅れたかなと思う感じもあります。しかし、時代の転換点をということの中で、実に多くの皆さんが「このままではいけない」ということを感じられ、さまざまな分野で新たな方向をめざして考え、実践してきています。今回の集会にはその息吹が結集されつつあります。そして、協同集会第1日目の午前中には集会に先立ち、「『協同労働の協同組合』法制化をめざす市民会議」の設立総会も開かれます。私たち労協の悲願であった労協法制定に向けた運動も市民会議の発足という新局面を迎えるまでに前進してきました。協同総研の会員の皆さんにも、是非11月25日～26日の2日間・東京学芸大学へ足を運んでいただき熱い討論をお願いします。

先日、第1回新労協七つの原則検討委員会が開かれました。現行の七つの原則を発展させ、

新たな原則を検討する委員会です。委員会では、労協法制定の動きが活発化している状況のもと、「協同労働の協同組合」として労協自身の内実づくりとそれを組織原則にも明確に位置付けることなどを基本に、各委員より活発な発言が行われました。今後、委員会を数次にわたり開催し、来春には新労協七つの原則（案）をとりまとめ、第22回日本労協連・定期全国総会にて発表し、1年間の全国討議をふまえて新原則を確定していく予定です。ICA原則や1992年改訂のモンドラゴン新原則等も学び・研究を重ねながら、日本における労働者協同組合運動の新たな指針を打ち出すこととなるでしょう。

さて、2001年を目前にして情勢は激しく動いています。特に、朝鮮半島をめぐる動きは全世界を駆けめぐっている感じがします。この原稿を書いている今日、10月24日の朝刊では、アメリカのオルブライト国務長官がアメリカの閣僚としてはじめて北朝鮮を訪問し、金正日総書記と会談したとトップで報道しています。東アジアをめぐる変化はこの6月の南北の首脳会談以降急速な展開を見せています。年内にも、クリントン大統領が北朝鮮を訪問するかもしれません。実は私たちと交流のある韓国自活支援センターでは、この12月上旬にソウルで国際シンポジウムの開催を予定しています。韓国では、来年ICA大会も開催されます。共に連帯と交流を深めながら、こうした情勢下、真の友好と韓国における協同組合運動の発展を願いたいと思います。平和な新世紀となることを希望しつつ。

富田 孝好（日本労協連事務局長）